

港湾における中長期政策検討のための懇談会（第1回） 議事概要

日時：平成29年8月29日（火）14:00～16:00

場所：中央合同庁舎3号館 4階特別会議室

○四国開発フェリー(株)瀬野副社長より、内航カーフェリーの物流戦略について下記の点を中心にご講演頂いた。

- ・内航フェリーへのモーダルシフトのメリット、無人航送の取組、省エネ型大型新造船の投入等の物流戦略の紹介
- ・ICTを活用したシャーシ管理や海陸料金一括收受、自動係船装置導入、柔軟な航路設定のための港湾規格標準化、高速航行レーン等の将来構想の提案

○竹林委員より、離島航路の維持について下記の点を中心にご講演頂いた。

- ・港湾の静穏度の問題や生鮮食品輸送時の加工・保管施設の不足、輸送時のリードタイムが長いことなど、離島における輸送上の課題の紹介
- ・内貿・外貿航路の共用化や航空輸送との積極的連携など、離島・島嶼地域への交通改善に向けた提案

○主なご意見：

内航フェリー・RORO 輸送について

- ・船舶の大型化による輸送コスト低減は、内航船社の一気通貫型の集貨という経営努力で担保されているが、これに対しては政策的な配慮が必要。
- ・内航においても、シャーシ管理、貨物のマッチング・トレースなどの面で、情報化の取組が必要。
- ・ドライバー不足が深刻化しており、長距離輸送に関しては、内航フェリー・RORO 船に期待している。
- ・港湾への鉄道引込みや、船舶どうしの乗継についても、検討が必要。
- ・モーダルシフトの検討の際には、排出 CO2 の削減など環境負荷の違いについても整理が必要。
- ・道路整備の進捗に合わせ、内航フェリーを活用して、地方部に観光客を誘致する取組が必要。

離島航路について

- ・国境離島の整備の必要性については、経済的な便益以外の部分も踏まえて検討していくことが必要。
- ・産業面や観光面での成功事例の共有が必要。一方で、離島により抱えている課題は様々なので、解決策の検討は丁寧に行うことが必要。
- ・地理的な重要性などもそれぞれ異なり、離島を一把で議論できないが、国として離島の港湾をどう位置付けるかの議論が必要。

以上